

高砂香料工業株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：化学 ● 事業概要：フレーバー、フレグランス、アロマイングリディエント、ファインケミカルの製造・販売及び関連する研究開発 ● 事業規模 <p>【売上】150,516百万円(2019年3月期)</p> <p>【従業員数】3,470名(2019年3月期)</p>
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>Scope 1については、ボイラーの低負荷エネルギーへの切り替えや設備更新などで削減を進めたいと考えています。(ただし過去10年で削減が進んでおり、削減余地は少ないと考えています)</p> <p>Scope 2については、再生可能エネルギーが比較的入手しやすいEU圏において再エネ等排出係数の低い電力の使用比率をあげていき、グローバルに活動を拡大していきます。</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>今後、具体的な検討に入っていきます。</p> <p>例としてはカテゴリ4 <上流の輸送・流通>に関して、物流網の再整備などを通じ削減していくことなどを検討しています。</p>

高砂香料工業株式会社

項目	内容									
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1・2・3の排出量の状況 <table border="1"><caption>GHG Emissions by Scope (2018)</caption><thead><tr><th>Scope</th><th>Percentage</th></tr></thead><tbody><tr><td>Scope 1</td><td>2%</td></tr><tr><td>Scope 2</td><td>2%</td></tr><tr><td>Scope 3</td><td>96%</td></tr></tbody></table>	Scope	Percentage	Scope 1	2%	Scope 2	2%	Scope 3	96%	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE1 : 31,309[tCO₂] (2018年度)
		Scope	Percentage							
		Scope 1	2%							
Scope 2	2%									
Scope 3	96%									
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE2 : 35,888[tCO₂] (2018年度)										
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE3 : 1,699,212[tCO₂] (2018年度)										

高砂香料工業株式会社

項目	内容
<p>4.気候変動によるリスクと機会の分析</p>	<p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 政策・法規制の強化による工場運営への影響 ● 災害の激甚化によるサプライチェーンへの影響 ● 市場における需給変化に伴う原料高騰による影響 ● 低炭素技術への研究開発投資の失敗 <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 効率的な生産プロセスや輸送手段による生産性向上 ● 低炭素商品の開発による競争力の強化 <p style="text-align: right;">など</p>
<p>5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など</p>	<p>SBTの認定を得ることで、弊社の活動指針・目標に対し、広くステークホルダーからの理解が得られます。</p> <p>自社内においても、第三者機関の認定を受けた目標であることから、自社の社会の中での位置づけを再認識し、CO₂排出削減に向けた活動及びサステナビリティ活動をより計画的に、加速度的に進めることができます。</p>

高砂香料工業株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● EHS部門が中心となって算定したサプライチェーン排出量を元に、CSR部門にて目標設定案を作成、その後は取締役会等にて審議・承認を受けるなどの十分な社内コンセンサスを得た上で、SBTイニシアチブへ提出する予定です。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● Scope1及び2の削減については、再生可能エネルギーの活用手段について検討が必要となります。● Scope3の削減については、引き続き具体的な施策の検討が必要となります。● Scope3の算定については、業務の実態を反映し、今後は業務改善に活用できるよう、算定基準をルール化する等により更に算定の精度を上げていく必要があります。